

# 公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

## I 法人の概要 (令和2年4月1日現在)

### 1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

### 2 設立年月日

昭和51年3月25日

### 3 代表者

理事長 利島 康司

### 4 基本財産

2,156,645千円

### 5 北九州市の出捐金

1,650,000千円 (出捐の割合 76.5%)

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	12人	0人	1人	11人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	11人	0人	0人	11人
職 員	65人	6人	0人	59人

### 7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

## II 令和元年度事業実績

### 【概況】

MICE分野においては、日本政府観光局(JNTO)発表の2018年の国際会議開催件数が、北九州市は前年と同じく全国第8位の好成績となったほか、毎年恒例の自主事業や夏季にぎわいイベントの実施、コンベンションなどの誘致・開催、貸館営業などに積極的に取り組み、利用実績は順調に推移した。その一方で、令和2年2月以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大型イベントを中心に開催自粛が広がり、3月は多くの施設利用がキャンセルとなった。年間の利用実績では終盤の落ち込みがあったものの、拡大以前の好調により例年に近い実績となった。

観光分野においては、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外でのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に組み、物産品販売においても上期は好調に推移したが、

下期はインバウンドの減少や新型コロナウイルス感染症の拡大により観光客数が大きく落ち込み、業績への影響が見られた。

収支においては、新型コロナウイルス感染症の拡大以前の業績が好調に推移したことにより一定の黒字を確保し、将来に向けた経営基盤の強化を図るとともに、サービス向上や業務効率化のための機器類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況が続き、MICE事業・観光事業とも先行きが不透明となっており、短期的な協会運営への対応も喫緊の課題となっている。当面は、コスト管理の徹底と国等の支援策活用の検討、北九州市との対応策の連携等を行いながら、終息後の事業展開に向けた準備を行い、中長期的な競争激化への対応も踏まえ、自立した経営を維持しなければならない。

## 見本市・展示会事業

### 1 主催・共催事業

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。主催・共催の事業においては、新たなビジネスの動向やSDGsの紹介、市場とつながるビジネスマッチングの展開などに取り組んだ。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

※（ ）内は平成30年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本製造技術イノベーション2019	6月19日～21日	31,672人	66社・団体(48)
第45回ふくおか産業技術振興展		(17,214)	19社・団体(21)
第41回西日本陶磁器フェスタ	9月19日～23日	56,379人 (64,813)	230社(226)
エコテクノ2019～地球環境ソリューション展～	10月9日～11日	28,120人 (30,455)	41社・団体(59)
エコテクノ2019～エネルギー先端技術展～			86社・団体(85)
エコ・ベンチャー・メッセ2019			13社・団体(21)
中小企業テクノフェア in 九州2019			51社・団体(70)
P.P.C.2019 第21回西日本国際福祉機器展	11月14日～16日	18,611人 (20,069)	141社・団体(119)
合計	8事業(8事業)	134,782人 (132,551)	647社・団体(649)

### 【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

#### ア 見本市・展示会の価値創造

SDGs未来都市・北九州市のテーマである持続可能な目標に応じた地域経済活動に取り組むため、「次世代金融や再生エネルギーの利活用」「地域に根差した伝統工芸の振興」「Society 5.0 社会課題への対応」など産業振興に注力した。さらに、ビジネスマッチング機能や業務の共通化などに取り組む、出展社数や来場者数などの改善につながった。

○ 「西日本製造技術イノベーション」における取り組み

今後、アジアにおける市場拡大が見込まれる「航空機産業」や「先進医療・介護ロボット」等のセミナーを開催した。また、高機能素材「CFRP(炭素繊維強化プラスチック)」、「CNF(セルロースナノファイバー)」を地場に普及させるため、特別企画展を開催した。さらに、溶接・接合技術の展示会である「2019 ウエルディング・フォーラム in 西日本」を2年ぶりに同時開催し、多くの出展社と入場者を集めた。

○ 「西日本陶磁器フェスタ」における取り組み

全国各地(北海道から鹿児島まで)の窯元の良質な手づくり作品の紹介や特別企画として、「SAGA TEA WARE FAIR」、「未来デザインクリエイティブ～現代の名窯 柿右衛門の世界～」等を展開した。また、人気作家の器で日本茶を楽しむカフェの設置やSNSを活用した広報などにより、若年層の集客につなげた。

イ 成果のあがる展示会の構築(継続的マッチング支援)

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、より大きな成果が得られるように会期前後の活動を強化した。

○ 製造技術マッチングフェア(商談会)

展示会を介した地域中小企業の販路拡大支援として、(公財)福岡県中小企業振興センターの協力を得て「製造技術マッチングフェア(商談会)」を開催した。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2019 ビジネスマッチング事業

産業コーディネータ集団「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、マッチングの件数と質の向上を目指した取り組みを行った。きめ細かなシーズ説明、市場のニーズ調査などにより、出展社アンケートでも高い評価を得た。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。

(104テーマ、参加者数4,611人)

## 2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国BEXCO(釜山国際展示場)とのMOU事業

MOUを締結しているBEXCOと、主催事業の相互出展やベトナム環境展における九州企業の販路拡大支援の実施、表敬訪問による交流を行った。

イ 展示会の国際化

エコテクノにおいて、BEXCOとの相互出展事業として、「ENTECH釜山」とのブース交換による韓国企業・団体の出展や日本貿易振興機構、JICA九州の出展による海外進出に関する支援メニュー及び活用事例の紹介を実施した。また、西日本国際福祉機器展において、「KORECA」のPRブース設置や韓国大田広域市東京事務所を介した企業出展があり、国内バイヤーとの取引拡大と情報交流を図った。

#### ウ アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の実施

「ENTECHベトナム」(ホーチミン)、「ENTECH釜山」、「KORECA2019」への出展により、ホーチミンでは7社の企業を参加コーディネートし、アジア地域での取引拡大を図った。「ENTECHベトナム」では、九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)と協力し、来場誘致型のビジネスマッチングによる商談を平成27年度から注力してきた結果、ベトナム社会主義共和国環境総局局長から表彰を受けた。

#### (3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

経済環境の変化に呼応した展示会そのものの見直しを図るべく、全国の展示会の動向調査や既存展示会の統合、リニューアルの検討など新たな価値創造に向けた取り組みを進めた。

また、展示会を活用したビジネスマッチングの場として、出展企業と来場者を結びつける「課題解決掲示板」を製造技術イノベーション展・エコテクノ・西日本国際福祉機器展の3展示会に設置し、地域における課題解決機能の拡大を図った。

#### (4) 災害復興支援

平成28年4月の熊本・大分地震災害と、平成29年7月の九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨では、展示会に関係する様々な団体・企業が被災した中で、復興支援に取り組んだ。

エコテクノでは、被災した福岡・熊本・大分各県の環境・エネルギー関連企業の販路開拓・情報発信の拡大の一助となるべく震災復興支援ブースを設けた。(参加数8社8小間)

また、西日本陶磁器フェスタでは、朝倉災害復興支援事業「あさくら杉おきあがりこぼし展」(主催：同展実行委員会)を展開。広報協力と会場の無料提供により同事業を支援した。

### 会議・大会等

#### 3 誘致・支援事業

(1) 北九州市がグローバルMICE都市に選定されて以来、ローカルホスト及びグローバルMICE推進協議会との連携を強化し、積極的な誘致活動を進めた。日本政府観光局(JNTO)発表の2018年の国際会議開催件数は全国8位と前年同様の好成績をおさめた。

(2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、令和元年度の開催状況は、316件となった。

また、これらの誘致活動及び開催助成金の効果的な活用の成果として、令和2年度以降に合計217件(令和2年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、令和元年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は83億8,180万円であった。

#### ◆年度別開催件数の推移

(単位：件)

区分	国際	全国	その他	合計
R1年度	127	73	116	316
H30年度	114	80	87	281
H29年度	121	75	86	282

## ◆年度別参加者数の推移

(単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
R1年度	72,088	75,745	50,288	198,121
H30年度	86,372	69,256	40,913	196,541
H29年度	35,147	89,957	89,173	214,277

## ◆令和元年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	規模 (外国数、人数)
国際	5th IEEE International Conference on Applied System Innovation (IEEE ICASI 2019)	H31年4月	北九州国際会議場 AIM3F	760人 (5カ国700人)
	Asia Pacific Conference2019 (九州歯科大学アジア太平洋カンファレンス2019)	R1年5月	九州歯科大学	680人 (2カ国70人)
	79th Analytical Chemistry Symposium (日本分析化学会 第79回分析討論会)	R1年5月	北九州国際会議場 AIM3F	2,000人 (6カ国180人)
	The 2019 Asian Control Conference (アジア自動制御学会 ASCC2019)	R1年6月	北九州国際会議場	1,950人 (23カ国1200人)
	57th Annual Meeting of the Adhesive Society of Japan (第57回日本接着学会年次大会)	R1年6月	北九州国際会議場	1,072人 (4カ国93人)
	The 8th International Conference on Frontier Computing (FC2019)	R1年7月	北九州国際会議場	200人 (11カ国180人)
	World Mathematics Invitational (WMI 世界数学決勝大会)	R1年7月	西日本総合展示場新館	1,500人 (15カ国1500人)
	The 5th International Conference on Fuzzy Systems and Data Mining (FSDM2019)	R1年10月	北九州国際会議場	489人 (19カ国440人)
	62nd Autumn Meeting of the Japanese Society of Periodontology (第62回秋季日本歯周病学会学術大会)	R1年10月	西日本総合展示場新館 北九州国際会議場 AIM3F	5,622人 (3カ国48人)
	AILCD International Workshop 2020	R2年2月	北九州学術研究都市	1,100人 (5カ国880人)
全国	第45回日本熱傷学会総会学術集会	R1年5月	北九州国際会議場	1,140人
	公益社団法人日本リウマチ友の会 第59回全国大会	R1年6月	リーガロイヤルホテル小倉	600人
	第44回海洋開発シンポジウム2019	R1年7月	北九州国際会議場	796人
	第39回日本骨形態計測学会	R1年7月	北九州国際会議場	700人
	令和元年度 全国高専フォーラム	R1年8月	北九州国際会議場 AIM3F	1,500人
	令和元年度 日本私立大学協会 事務局長相当者研修会	R1年10月	リーガロイヤルホテル小倉 TKPカンファレンスセンター	1,200人
	一般社団法人 日本塗装工業会 第26回全国建築塗装技能競技大会	R1年10月	西日本総合展示場新館 北九州国際会議場	2,000人
	北九州港開港130周年記念事業 「JWPA10周年記念 洋上風力シンポジウム」	R1年10月	北九州国際会議場 明治学園、他	1,599人
九州 西日本	第16回日本褥瘡学会九州沖縄地方学術集会	R1年5月	ソレイユホール・ 男女共同参画センタームーブ	2,609人
	第23回日本救急医学会九州地方会	R1年5月	北九州国際会議場	1,000人

【主な取り組み】

○ 誘致営業

新規誘致件数（令和元年度中の誘致営業により北九州市での開催が決定した件数）が 294 件と目標を上回る結果を残すことができた。地元ネットワークを活用した情報収集に加え、そのネットワークから国際・全国レベルのキーパーソンに対してのアプローチの展開、I C C Aデータベースを活用した営業展開など、多様な形で誘致活動を行った。

○ スポーツ誘致

北九州市ではラグビーワールドカップ 2019 日本大会に出場するウェールズ代表チームのキャンプが行われ、スポーツ機運が高まる中、第 1 回北九州市長杯兼第 14 回西日本新聞社旗争奪夏季野球大会、第 71 回全日本学生新体操選手権大会、第 24 回全日本レディースソフトボール大会等の誘致を行い、45 件、延べ参加人員 7 万人のスポーツイベントを誘致することができた。

○ グローバル M I C E の推進

I C C A のネットワークを活用し、開催候補年やキーパーソンなどの会議情報を活かした国際会議誘致に取り組むとともに、J N T O との連携により、「J A P A N M I C E セミナー」（シンガポール）や、国際会議海外キーパーソン招請事業「M e e t J a p a n」（東京）などの商談会に参加し、国際学協会のキーパーソンへの誘致営業を行った。また、J N T O ロンドン事務所より海外学協会主催のワークショップに関する有力な情報を入手し、その後、当協会が開催への全面サポートを行い成功裏に終了させるなど、地方都市として特筆する誘致開催支援活動を行った。

○ 北九州 M I C E 倶楽部・下関首都圏誘致懇談会 首都圏交流会

北九州市で過去にコンベンションを実施、または今後検討している首都圏の大学教員等の会議主催者との交流会を、一体的な都市圏・経済圏を形成する下関市と共同で開催した。

○ ユニークベニューの活用とアフターコンベンションの強化

ミクニワールドスタジアム北九州の特別ラウンジを使用したバンケットや、リニューアルオープンした小倉城・天守閣、しろテラス、関門海峡ミュージアムのマリーナテラス K A I T O を利用した懇親会を実施することで特別感を演出するなど、北九州の魅力や特徴を生かしたアフターコンベンション、ユニークベニューに取り組んだ。

(3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを実施した。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は平成 30 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in こくら	R1 年 7 月 31 日	191 人 (166 人)
第 26 回北九州将棋フェスティバル	R1 年 9 月 14 日～15 日	837 人 (787 人)

※第 19 回全国俳句大会 in 北九州は新型コロナウイルス感染症拡大により中止

## 貸館利用者の誘致・営業強化

### 4 営業体制の強化

#### (1) リピーターへの定着化フォロー及び過去利用者への提案営業

既存利用者に対して、次回日程提案等の積極的なフォローを行い、定着化を図った。また、隔年開催や利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施し、11件の復活開催が実現した。

#### (2) 新規利用者の開拓

社内技能競技会やゲームイベント、大学の入学試験会場など25件の新規展示会等を開催した。

#### (3) 大規模イベントの誘致と支援

ゴールデンウィーク期間に人気スマホゲーム「グラブルエクストラフェス 2019 福岡」を展示場新館・本館において開催した。また、10月には今回で5回目の開催となる「東京ガールズコレクション 2019」(TGC KITAKYUSHU 2019)、11月には今回で6回目の開催となる「北九州ポップカルチャーフェスティバル 2019」(KPF 2019)が開催され、北九州市の活性化と経済効果を促した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、3月に開催予定であった「西日本釣り博 2020」が延期になるなど、催事開催に影響が及んだ。

### ◆令和元年度 新規及び利用が復活した主な展示会・見本市等の誘致実績

催事名	開催時期	催事名	開催時期
AKB48 大握手会	H31年4月	2019 ファディ大展示商談会	R1年9月
小倉ハンドメイドマルシェ	R1年5月	Hisamitsu OP・PP～未来への貼戦～	R1年10月
2019 北九州フードフェア	R1年5月	第5回スプラトゥーン 甲子園 九州地区大会	R1年11月
トミカ博 in KITAKYUSHU	R1年7月	第1回全国トヨタ販売店サービス技術コンクール九州地区大会	R1年11月
いきものKINGDOM in 北九州	R1年7月	FGO ウィンターキャラバン 2019-2020 ～カルデアパーク	R1年12月
第1回北九州ミネラルマルシェ	R1年8月	TOMORROW X TOGETHER リリース記念特典会	R2年1月
北九州 子どものための大昆虫展	R1年8月	西南学院大学 一般入試	R2年2月
令和元年度 第1回運行管理者試験	R1年8月	LOVELIVE! SUNSHINE!! UNIT LIVE ADVENTURE 2020	R2年2月

### 5 閑散期対策等のイベントコーディネート

夏季のにぎわいイベントとして、7月に「トミカ博 in KITAKYUSHU」をFBS福岡放送と展示場本館で開催（来場者6.6万人）、7月下旬には札幌市で体験型ふれあい動物園を運営しているノースサファリサッポロが「いきものKINGDOM in 北九州」を地元テレビ局のRKB毎日放送と展示場本館で初開催した。（来場者7万人）

### ◆令和元年度 閑散期対策イベント等の開催実績

催事名	会期	入場者数
トミカ博 in KITAKYUSHU	R1年7月12日～17日	65,828人
いきものKINGDOM in 北九州	R1年7月26日～8月25日	70,079人
合計		135,907人

## 広報・宣伝、地域連携

### 6 広報、宣伝

ホームページにおいて、イベントの最新情報や施設の紹介、協会の主催事業やコンベンション誘致に関する情報を提供し、見やすく迅速な情報発信ができるように努めた。

### 7 地域連携

小倉駅新幹線ロエリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うなど、地域の活性化に助力し、にぎわいづくりに取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州及びJR西日本との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

## 管理・運営

### 8 お客様満足度の向上

#### (1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確に汲み取り、丁寧に対応することを心掛けた。また、ウェブサイトでの会議室利用料等の概算シミュレーションを可能とする予約サポートシステムの導入を行い、利用者が安心して利用できる環境を整備した。

ミクニワールドスタジアム北九州での試合開催時には、展示場・会議場利用者に影響が及ばないよう、主催者であるギラヴァンツ北九州と事前に会場周辺についての打ち合わせを行い、トラブル防止に努めた。

#### (2) 職員の資質・能力の向上・人材の確保

人材確保が難しく流動的な状況において、人材の充実を図るため職員の新規採用を行った。また、外部研修の受講や「大規模展示場連絡協議会」の海外展示場視察への参加、QC活動の実施により、職員の資質・能力の向上を図った。

### 9 利用料金の見直し

北九州市に誘致された大規模国際大会のため、弾力的な運用を行い、開催支援を行った。また、人手不足による委託費・修繕費の上昇、消費税改定等に対応するための利用料金改定について検討を行った。

### 10 管理業務の効率化

照明のLED化による電力使用量の低減や、デマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転等による消費電力の削減、メンテナンス等委託業務の内容の見直しなど、管理経費の削減に努めた。また、国際会議場へのテナント入居促進や、全国規模の賃貸会議室ポータルサイトへの登録によるPRなど、増収対策に取り組んだ。



11 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上等のため、施設設備の改修更新等を行った。

【主な実施内容】 展示場本館：屋根防水部分改修、展示場新館：天井照明タッチパネル更新、国際会議場：館内トイレ洋式化、等

12 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
R1 年度	61	308	88.0	27
H30 年度	64	299	86.9	24
H29 年度	67	285	80.3	32

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
R1 年度	171	274	78.3	57
H30 年度	193	309	86.6	56
H29 年度	179	286	79.2	69

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
R1 年度	536	323	91.0	7
H30 年度	539	334	96.0	8
H29 年度	557	325	94.5	6

13 指定管理

指定管理期間 (令和元年度～5 年度) の初年度であった令和元年度は、指定管理計画に掲げた目標 (来場者数 (展示場・会議場) 96 万人、コンベンション誘致件数 250 件など) を概ね達成 (来場者数 91 万人、コンベンション誘致件数 294 件など) した。

観光客の誘致及び滞在化の促進

14 観光客誘客事業・滞在化促進事業

北九州市及び観光関連企業で「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を組織し、国内・海外において本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

「Kitaqフェス in TOKYO (東京都・11月9日～10日)」、「お城EXPO2019 (横浜市・12月21日～22日)」での観光PRや『日本新三大夜景都市』を活用した「皿倉山夜景観賞ツアー (10月4日～11月4日)」、「『ハローキティ』を活用したバスツアー (1月11日～13日・2コース) などを実施した。

#### 【北九州市国際観光推進協議会事業】

新規インバウンド送客が見込める誘致助成金事業や、韓国、台湾等の旅行会社へのセールスを実施し、海外からの観光客の誘致を図った。

#### 【北九州産業観光センター実行委員会事業】

「ツーリズムEXPOジャパン2019」、「北九州マラソン2020」など、市内外のイベントに出展し、産業観光PRを実施した。

#### 15 修学旅行誘致事業

北九州市及び修学旅行関連企業と連携し、主要都市の旅行会社へのセールス活動を行った。

#### 16 助成事業

伝統的な祭事へ助成を行った（11件）。

#### 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

#### 17 企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページの運営等により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

#### 観光に関する人材の育成及び啓発

#### 18 百万にこここホスピタリティ運動

食事やお土産購入、観光に活用できる北九州いろいろマップの制作（10,000部）や、SNS等での各事業者による取り組みの紹介等を実施した。

#### 19 観光案内ボランティアの養成及び派遣

##### (1) 観光案内ボランティア制度運営

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動を実施した。また、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催した。

##### ① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

ガイド件数：1,135件、ガイド人数：23,848名（特設観光案内所含む）、活動者数：1,945名

##### ② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動

とばた菖蒲まつり、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、わっしょい百万夏まつり

##### ③ 観光案内ボランティア研修会

全体研修会などの開催、「明治日本の産業革命遺産」ガイド研修会などへの参加

##### (2) 北九州観光市民大学

- ・期間：令和元年10月16日～令和2年1月22日（計13回） ・会場：北九州国際会議場他
- ・受講者数：40名（うち、北九州市観光案内ボランティア登録者24名）

(3) 観光功労者等表彰

観光事業の発展に著しい功績のあった個人、または団体を表彰した（8名）。

**特産品の紹介・宣伝**

20 特産品の紹介・宣伝

(1) 特産品パンフレットの作成配布

特産品を紹介するパンフレットを作成、市内各所に設置し観光客等にPRを行った。

(2) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等

- ・北九州観光市場（発注件数：230件）
- ・楽天市場（発注件数：821件）
- ・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品（受注件数：727件）

(3) 大規模イベント会場での臨時売店設置

市内外での大規模イベントにおいて臨時売店を設置した（設置件数：19件）。

**観光に関する施設の管理運営**

21 観光案内所運営業務

**【北九州市観光案内所運営協議会】**

北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)と北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内3箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

《案内件数》

北九州市総合観光案内所：66,047件、門司港駅観光案内所：22,531件

北九州空港総合観光案内所：52,206件

**【北九州産業観光センター】**

北九州産業観光センター（北九州市、北九州商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行った。

《参加状況》産業観光視察（21件522名）、工場夜景ツアー（クルーズ、バス）（10件540名）

工場夜景定期クルーズ 実施主体：関門汽船(株)（90件3,673名）

22 土産品・特産品売店の管理運営

門司港レトロ地区の主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営。キャッシュレス消費者還元事業加盟店登録を行い、免税店としての機能を活用し、外国人旅行者への特産品PR・販売を促進した。また、TOTOミュージアムでは、売店の運営を受託し、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

23 小倉駅イベント広場等の管理運営

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、イベントや観光展などへ貸出を行った。

また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。

### Ⅲ 令和元年度決算

#### 1 貸借対照表（総括表）

令和2年3月31日現在（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	679,237,352	672,380,093	6,857,259
売掛金	7,091,555	10,056,002	▲ 2,964,447
未収金	57,655,086	51,434,401	6,220,685
棚卸資産	6,701,315	5,873,532	827,783
貯蔵品	625,197	555,609	69,588
前払金	788,601	872,528	▲ 83,927
立替金	2,380	35,564	▲ 33,184
仮払金	18,526,863	18,925,743	▲ 398,880
流動資産合計	770,628,349	760,133,472	10,494,877
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	380,144,240	420,752,284	▲ 40,608,044
建物付属設備	1	4	▲ 3
構築物	5	86,383	▲ 86,378
機械及び装置	30,350,144	42,030,923	▲ 11,680,779
基本財産引当資産	761,181,274	761,101,266	80,008
減価償却引当資産	984,968,914	984,931,457	37,457
基本財産合計	2,156,644,578	2,208,902,317	▲ 52,257,739
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	187,043,346	186,895,683	147,663
減価償却引当資産	15,695,576	18,865,776	▲ 3,170,200
目的事業引当資産	625,112,525	625,103,525	9,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	191,148,500	182,238,250	8,910,250
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	10,000,000	20,000,000	▲ 10,000,000
特定資産合計	1,111,649,947	1,115,753,234	▲ 4,103,287
(3) その他固定資産			
建物	3,922,565	4,196,412	▲ 273,847
建物付属設備	532,759	1,169,000	▲ 636,241
構築物	1,331,645	1,546,349	▲ 214,704
車両運搬具	1,342,729	2,111,826	▲ 769,097
什器備品	7,519,014	2,922,908	4,596,106
機械及び装置	2,006,680	0	2,006,680
建設仮勘定	0	17,000,000	▲ 17,000,000
ソフトウェア	36,155,008	0	36,155,008
リース資産	894,600	1,968,120	▲ 1,073,520
繰延税金資産（長期）	5,604,000	5,744,000	▲ 140,000
その他固定資産合計	59,309,000	36,658,615	22,650,385
固定資産合計	3,327,603,525	3,361,314,166	▲ 33,710,641

資産合計	4,098,231,874	4,121,447,638	▲ 23,215,764
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
買掛金	2,721,065	7,881,470	▲ 5,160,405
未払金	105,592,082	157,935,476	▲ 52,343,394
前受金	12,891,909	40,303,509	▲ 27,411,600
預り金	12,264,522	18,186,843	▲ 5,922,321
仮受金	2,747,291	200,742	2,546,549
未払法人税等	33,317,900	38,264,700	▲ 4,946,800
賞与引当金	10,864,547	14,723,354	▲ 3,858,807
流動負債合計	180,399,316	277,496,094	▲ 97,096,778
2. 固定負債			
退職給付引当金	187,043,346	186,895,683	147,663
リース債務	894,600	1,968,120	▲ 1,073,520
預り敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	188,537,946	189,463,803	▲ 925,857
負債合計	368,937,262	466,959,897	▲ 98,022,635
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	324,891,931	348,218,439	▲ 23,326,508
基本財産運用益	5,181,274	5,101,266	80,008
指定正味財産合計	1,086,073,205	1,109,319,705	▲ 23,246,500
(うち基本財産への充当額)	(1,086,073,205)	(1,109,319,705)	(▲ 23,246,500)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	2,643,221,407	2,545,168,036	98,053,371
(うち基本財産への充当額)	(1,070,571,373)	(1,099,582,612)	(▲ 29,011,239)
(うち特定資産への充当額)	(924,606,601)	(928,857,551)	(▲ 4,250,950)
正味財産合計	3,729,294,612	3,654,487,741	74,806,871
負債及び正味財産合計	4,098,231,874	4,121,447,638	▲ 23,215,764

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 31 年 4 月 1 日  
至 令和 2 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	11,079,587	11,264,193	▲ 184,606
展示場設備受贈益	23,326,508	23,326,508	0
特定資産運用益	4,228,500	4,228,500	0
受取会費	9,796,200	9,855,000	▲ 58,800
事業収益	839,608,402	841,214,629	▲ 1,606,227
受取補助金等	315,708,764	339,857,644	▲ 24,148,880
受取負担金	73,102,122	80,090,163	▲ 6,988,041
協賛金	690,000	700,000	▲ 10,000
雑収益	23,737,676	19,947,687	3,789,989
経常収益計	1,301,277,759	1,330,484,324	▲ 29,206,565
(2) 経常費用			
事業費	1,157,454,678	1,191,495,756	▲ 34,041,078
管理費	12,311,340	13,635,590	▲ 1,324,250
経常費用計	1,169,766,018	1,205,131,346	▲ 35,365,328
当期経常増減額	131,511,741	125,352,978	6,158,763
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
建物除却損	3	0	3
建物付属設備除却損	3	0	3
機械及び装置除却損	6	0	6
什器備品除却損	458	3	455
ソフトウェア除却損	0	18,000	▲ 18,000
経常外費用計	470	18,003	▲ 17,533
当期経常外増減額	▲ 470	▲ 18,003	17,533
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	33,317,900	33,859,900	▲ 542,000
法人税等調整額	140,000	398,000	▲ 258,000
当期一般正味財産増減額	98,053,371	91,077,075	6,976,296
一般正味財産期首残高	2,545,168,036	2,454,090,961	91,077,075
一般正味財産期末残高	2,643,221,407	2,545,168,036	98,053,371
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
基本財産運用益	4,192,508	4,375,508	▲ 183,000
一般正味財産への振替額	27,439,008	27,622,008	▲ 183,000
当期指定正味財産増減額	▲ 23,246,500	▲ 23,246,500	0
指定正味財産期首残高	1,109,319,705	1,132,566,205	▲ 23,246,500
指定正味財産期末残高	1,086,073,205	1,109,319,705	▲ 23,246,500
<b>III 正味財産期末残高</b>	3,729,294,612	3,654,487,741	74,806,871

## IV 令和2年度事業計画

### 1 総論

#### 【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致開催するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進により、当地域の都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献していくことである。この役割を果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

- (1) 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化
  - ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など
- (2) 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動
  - ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など
- (3) にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進
  - ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理による、にぎわい事業の実施と利用者の新規開拓、など
- (4) 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供
  - ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、など
- (5) 情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進
  - ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など
- (6) 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成
  - ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など
- (7) 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築
  - ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など
- (8) 持続可能な施設運営に向けた環境経営
  - ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

#### 【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和2年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の指定管理期間の2年目を迎える。これまでの指定管理者としての実績を活かし、指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携による魅力ある取り組みを行い、指定管理計画に掲げる目標（令和2年度：来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）を着実に達成するとともに、法人の安定経営を実現するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

## 2 各論

### 協会主催事業の強化

#### (1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

令和2年度は、「西日本国際福祉機器展」など、8事業を開催し、東アジア経済の動向や北部九州の産業施策に重点を置き、ビジネスマッチングの機会や先端技術などの発信を通じて、西日本地域の経済活性化や地域の産業・貿易の振興に努める。「西日本製造技術イノベーション」や「エコテクノ」においては、新素材や再生可能エネルギーなど、今後注目が予想される技術分野を紹介し、地域産業界の新規事業参入や新技術導入の機会を促進する。

#### 《令和2年度開催の事業》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本製造技術イノベーション2020	6月17日～19日	18,000人	60社・団体
第46回ふくおか産業技術振興展			30社・団体
第42回西日本陶磁器フェスタ	9月18日～22日	60,000人	200社
エコテクノ2020 ～地球環境ソリューション展～	10月28日～30日	25,000人	50社・団体
エコテクノ2020 ～エネルギー先端技術展～			70社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2020			20社・団体
中小企業テクノフェア in 九州 2020			70社・団体
P.P.C.2020 第22回西日本国際福祉機器展	11月19日～21日	10,000人	100社・団体
合計	8事業	113,000人	600社・団体

#### 《企画内容の充実》

##### ○ 『西日本陶磁器フェスタ』の魅力向上

令和2年度は「東アジア文化都市2020北九州」の連携事業として、魅力あるイベントとなるよう取り組む。また、出展窯元によるトークライブや器と関係が深いテーマのセミナーなどのステージイベント、西日本主要産地の組合・団体との協力による作品展を中心に、文化的要素の充実を図るとともにフェスタの魅力向上に努め、新たな来場者層の開拓に取り組む。

##### ○ 『エコテクノ』の充実と今後の方向性

北九州市が推進する「SDGs」や昨年度の展示会において先鞭をつけた「サーキュラー・エコノミー」などの情報を発信することで集客効果を高める。また、地域業界団体と連携し、地球温暖化対策の関連技術や新たな資源リサイクル手法などを紹介することで、地域企業の新たな取り組みへのチャレンジとそれに伴うビジネスチャンスの拡大につながる足掛かりとなるよう内容の充実を図る。

#### 《ビジネスマッチングの開催》

##### ○ 主催事業における商談等の促進

西日本製造技術イノベーション、中小企業テクノフェア等において、高い技術的知見を有するコーディネータと連携し、ビジネスマッチングの拡大を図る。



## 《国際ビジネスの推進》

### ○ アジアの関係団体等への出展誘致の促進

韓国釜山広域市BEXCOとのMOUに基づき、共同出展事業や経営者の相互来訪を実施してきた。令和2年度は、BEXCOをはじめとする既存のつながりを活かした海外との取引機会の提供に注力し、北部九州とアジア地域の新たな交流の場づくりへとつなげる。

### (2) 地域課題の解決に向けた見本市の再編策の検討

地域において現在直面する課題の解決に向けて、関係機関と連携しながら既存展示会の再編策を推進する。具体的には、今後発展が見込まれる分野との結びつきを深め、異業種交流や新規参入を支援できるものへと再編する。

### ○ 『地域ニーズを捉えた新規企画』の導入と展示会運営の効率化

SDGsや国の地方創生総合戦略の推進とともに、関係団体との連携による地域ニーズに沿った新規企画を導入する。また、展示会の事業負担軽減を図るため、運営構造の見直しや業務の徹底した効率化を図る。

### ○ 他展示会主催者との共同開催に向けた意見交換の実施

大都市の主催者や事業部門を有する他の展示場等と意見交換を進め、将来における協力体制や共同開催に向けた道筋を構築する。

### (3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催し、市域の活性化に貢献する。

## コンベンション誘致の強化

### (1) グローバルレベルの誘致強化

国内外の商談会などに継続して参加することで、北九州市でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また、現在国際会議協会（ICCA）に加入しており、それを通じて北九州開催に適した会議の情報収集を行うなど、グローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、見本市・商談会で効果的なプロモーションを行うため、セールシートや動画などのPRツールの充実を図る。

### (2) 誘致営業活動についての取り組み

現地訪問による国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用促進、主催事業とのマッチング、MICE開催助成金の効果的活用、スポーツ関係の誘致等に取り組む。

### (3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有や海外への誘致セールス、主催者に対する開催支援活動に取り組む。また、令和元年度は、JNTOロンドン事務所からの情報により、国際会議の誘致に結び付くなどJNTOとの連携を深めている。今後もこの連携を強化しつつ誘致活動を推進するとともに、情報収集や北九州市の情報発信を図る。

#### (4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、新たなユニークベニユーの開発、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、地元産業の特性を活かしたオリジナルノベルティの開発など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

### 貸館利用者の誘致・営業の強化

#### (1) リピーターの定着化及び効率的稼働への取り組み

当協会の展示場施設の収益の安定を図るため、リピーターに対して、ニーズに沿った日程調整を行い、利用の定着化を図る。特に年間複数回利用の「自動車ディーラー」については、営業課と連携しながら他のリピーターとの兼ね合いをスムーズに解消することで、より効率的な施設稼働の実現に努める。

#### (2) 新規利用者の開拓

展示会以外の新たな分野（コンサートや受験会場等）の開拓やイベント主催者となるテレビ局や音楽プロモーターとの連携を図る。また、市内外から大勢の来客を見込める全国巡回型のイベントを誘致すべく積極的な営業を行う。

#### (3) 施設利用者への各種支援の実施

施設利用者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援を行い、施設利用の利便性を高める。

#### (4) 閑散期「にぎわいイベント」への取り組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。令和2年度は、「プラレール博 in KITAKYUSHU」の開催を予定している。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくため、会場利用等の条件の整備、効果的なコンテンツの選定を行い、多くのファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

### 広報・宣伝、地域連携

#### (1) 広報・宣伝

当協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、小倉駅マルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

#### (2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口の「にぎわいづくりと魅力アップ」に貢献していくため、「あるあるCity」、「ミクニワールドスタジアム北九州」などと連携したイベントの開催を検討する。小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、来訪者向けの情報発信や地域の交流活動を通じて地域活性化に向けた活動に積極的に取り組む。

また、小倉中央商業連合会との連携により、商店街内に歓迎バナーやポスターを積極的に掲出し、小倉駅南北の往来活性化を図る。

## お客様満足度の向上

### (1) サービスの向上

アンケートやヒアリング等で寄せられた意見に対して、協会内で検討のうえ誠実に対応し、またホームページにその情報を公開することで利用者との信頼関係を構築する。各施設については、グローバルMICE都市にふさわしく、多種多様な利用者ニーズに対してフレキシブルな対応を心掛ける。

### (2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。また、個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。さらに、QC活動を取り入れて、日々の業務の見直しを行うとともに職員間の意見交換を活発にし、職員全体のレベルアップを図る。

### (3) 災害甚大化に対応する防災体制の検討

近年、大雨、台風等の自然災害による被害の甚大化が進んでおり、災害発生時における危機管理体制を確立しておくことが重要となる。そのため、大規模災害の発生に備え、日頃から緊急時の対応や連絡体制を構築し、万一の際には、全職員が慌てることなく、利用者の安全、安心を確保すべく最善の行動を取れるよう準備しておく。

### (4) 施設・設備の改修等

展示場・会議場をいつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

### (5) 展示場本館の対応等

経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的・効果的な修繕計画を検討する。特に、会場利用者の会場選定や展示物の損害に直接影響を与える雨漏りの防止対策について重点的に行う。また、大規模改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

## 観光客の誘致及び滞在化促進

### (1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州市への観光客が増加している東アジアを中心とした旅行社へのセールスを強化するとともに、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。また、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、北九州市の祭り・イベントへの参加を促すことで、都市間交流による観光客誘致につなげていく。

### (2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程の実施状況の調査や旅行社教育旅行担当者へのセールス等を実施する。また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため、修学旅行受け入れのメニュー作りを行うとともに、教育関係者を招いたFAMツアー（視察旅行）の企画などを行う。

### (3) 助成事業

さらなる誘致強化を図るべく、国内向け旅行商品企画や海外旅行商品企画に対する助成を行い、国内外旅行者の誘客を促進する。また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し助成を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

#### 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や、北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北九州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の観光関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookなどのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、観光客のニーズに合った観光素材のPR活動を強化していく。

#### 観光に関する人材の育成及び啓発

外国人観光客の増加に対応し、受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーを実施するなど、観光マインド育成事業を行う。また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学の開講、観光功労者・団体を表彰する制度を通じて、観光マインドの醸成を推進する。

#### 観光に関する施設の管理・運営

公益目的事業では、北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会で組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、市内3ヶ所にある観光案内所において官民一体となったサービス強化を図る。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する「北九州おみやげ館」において、同地区の中心的売店としてのPRを重点的に行い、また新商品や話題の商品等を考慮した品揃えの充実とキャッシュレスでの支払方法をより強化することで収益増を図るとともに、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営を行う。また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについては、北九州市の玄関口にふさわしいにぎわいの創出につながるイベントの実施や新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。

#### 特産品の紹介・宣伝

特産品紹介パンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行うほか、北九州市の特産品をホームページで紹介するとともに、「北九州観光市場」「楽天市場」などの通販サイトで購入できるシステムを管理運営し、販売促進に努める。また、市内外で開催されるイベントや観光物産展のほか、MICE事業との連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場で臨時売店を出店し、北九州市の特産品やお土産を販売していく。

## V 令和2年度予算

収支予算書(総括表)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	5,265,000	1,663,000	3,930,000	0	10,858,000
展示場設備受贈益	17,663,000	5,578,000	0	0	23,241,000
特定資産運用益	4,110,000	109,000	0	0	4,219,000
受取会費	10,212,000	0	0	0	10,212,000
事業収益	347,367,000	513,665,000	0	0	861,032,000
受取補助金等	295,762,000	0	429,000	0	296,191,000
受取負担金	36,348,000	42,717,000	0	0	79,065,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	11,930,000	8,149,000	0	0	20,079,000
経常収益計	729,157,000	571,881,000	4,359,000	0	1,305,397,000
(2) 経常費用					
事業費	816,014,000	425,274,000	0	0	1,241,288,000
管理費	0	0	14,096,000	0	14,096,000
経常費用計	816,014,000	425,274,000	14,096,000	0	1,255,384,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 86,857,000	146,607,000	▲ 9,737,000	0	50,013,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 86,857,000	146,607,000	▲ 9,737,000	0	50,013,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	70,888,805	▲ 75,718,194	4,829,389	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	35,000,000	0	0	35,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 15,968,195	35,888,806	▲ 4,907,611	0	15,013,000
一般正味財産期首残高	1,919,555,558	403,583,982	▲ 34,192,623	0	2,288,946,917
一般正味財産期末残高	1,903,587,363	439,472,788	▲ 39,100,234	0	2,303,959,917
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
基本財産運用益	0	0	4,010,008	0	4,010,008
一般正味財産への振替額	17,663,000	5,578,000	3,930,000	0	27,171,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,663,000	▲ 5,578,000	80,008	0	▲ 23,160,992
指定正味財産期首残高	224,178,359	70,792,485	761,181,274	0	1,056,152,118
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	206,515,359	65,214,485	761,261,282	0	1,032,991,126
<b>III 正味財産期末残高</b>	2,110,102,722	504,687,273	722,161,048	0	3,336,951,043

## VI 役員名簿

令和2年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	近藤 晃	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	鮎川典明	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	今崎正明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
〃	廣瀬 香	(一社)九州経済連合会 農林水産部長
〃	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表
〃	南浦忠義	(株)リーガロイヤルホテル小倉 総支配人
監事	梶尾美栄子	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事